

わくわく板橋生き物マップ

令和6年度 生物多様性基礎調査

板橋区で見つかった生き物たちを紹介します。身近な生き物から普段はあまり見かけない生き物まで載せています。板橋の自然にふれあいながら、みんなで生き物たちを探してみましよう！！

おもて：板橋区の環状八号線の北側 / うら：板橋区の環状八号線の南側

板橋区の西側は、白子川が流れていて、近くの赤塚公園は板橋区の中でも特に大きな公園があります。住宅地の中にも点々と畑が残っていて、公園には緑の多い環境や池などがあり、タカ類やヘビ、トンボなども多く生息しています。



オオタカ (鳥類)

北海道から九州に1年中生息する。平地から山地の樹林に生息し、樹上で繁殖する。ハト類やカモ類など主に中型の鳥類を捕食する。



ヒバカリ (は虫類)

本州、四国、九州に分布する。低地から山地の森林や水田に生息する。朝、夕、日暮れ後に活動することが多く、カエルやミミズ、魚類を捕食する。



オオカマキリ (昆虫)

日本のほぼ全域に分布する。林縁や河川敷、公園などに生息する。卵で冬を越し、7-11月に成虫となる。肉食で、バッタやチョウ、ハチなどの昆虫を主に食べる。



ショウジョウトンボ (昆虫)

日本のほぼ全域に分布する。平地や丘陵地の流れの無い水辺に生息する。卵は水面近くの茎や壁に産み付けられる。成虫は4月~10月頃までみられる。



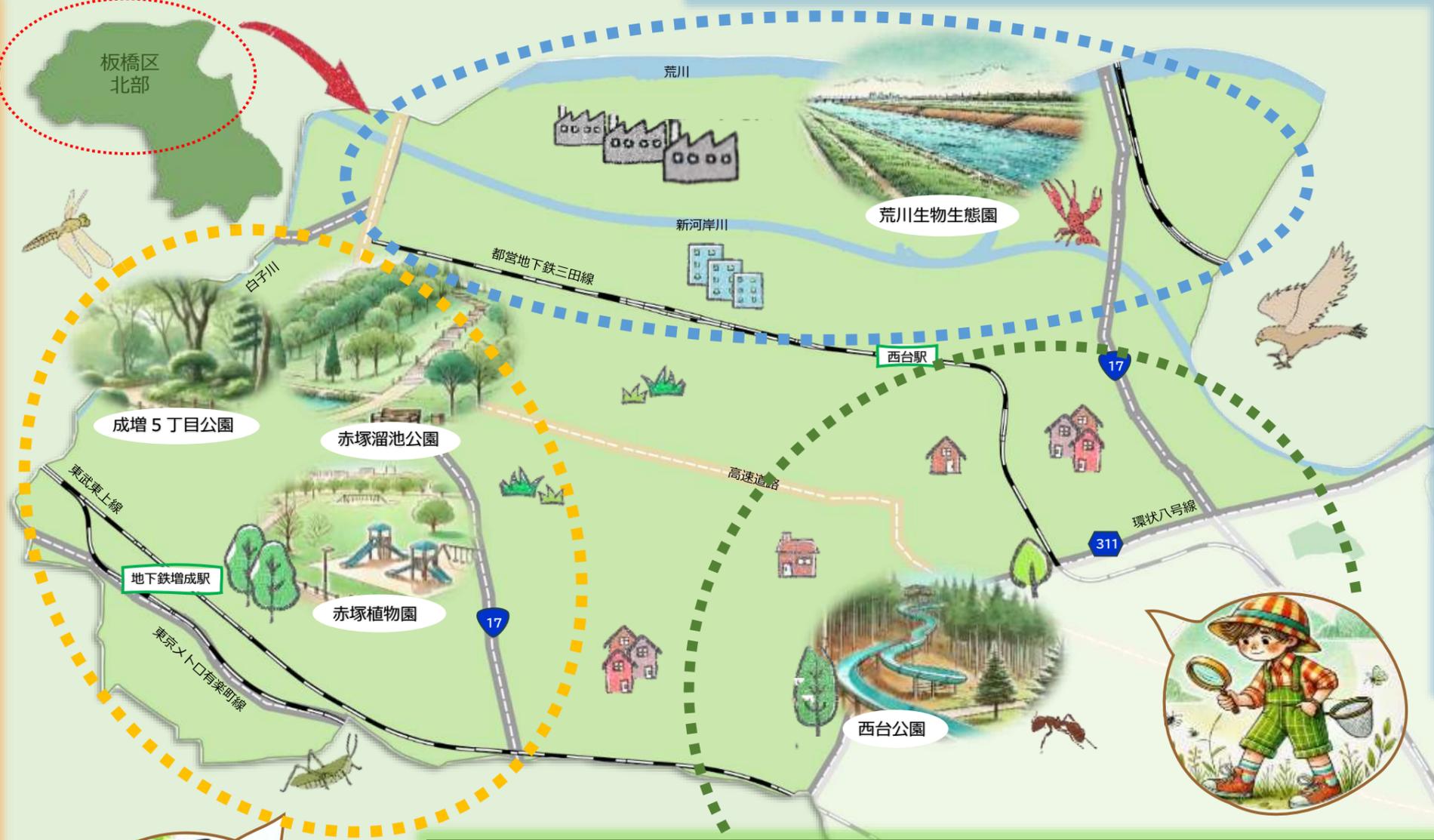
ニリンソウ (植物)

北海道から九州に分布する多年草。丘陵地や山地の湿った谷筋などを好み、群生する。早春に開花し、初夏には地上部が枯れてしまう。



タカネエビネ (植物)

本来の生息地は四国、九州などの暖かい地方。森林の林床に生える。4-5月頃に黄色い花を咲かせ、花には香りがある。



板橋区中央は、住宅や学校が多く立ち並ぶ都市の中に公園や緑地、街路樹などの自然も身近に感じられる地域です。季節によってさまざまな花やキツツキ等の鳥、トカゲ、カブトムシなどの昆虫が観察でき、都市と自然が調和していて、暮らしの中で自然とふれあう事ができます。



ヒガシニホントカゲ (は虫類)

北海道から近畿地方東部、南部に分布する。昼行性で、森林、市街地、畑などで見られる。主に昆虫やミミズなどの小動物を捕食している。



アオゲラ (鳥類)

本州から九州で1年中生息している。平地から山地の樹林に生息し、木をつついて穴を明け、中にいる昆虫類やクモ類、ムカデ類などを食べる。



ヒメウラナミジャノメ (昆虫)

北海道から九州に分布する。幼虫の間はイネ科のチヂミザサ、シバ、カヤツリグサ科のヒカゲスゲなどを食べ、1年に3回ほど発生する。



ヤマホトギス (植物)

北海道から九州に分布する多年草。山地に生え、7-9月に紫色の斑点のある花を咲かせる。花は白いものもあり、かなりの変異がある。

板橋区の北側は、荒川が流れ、自然豊かな河川敷や広い公園が点在しているエリアです。特に荒川沿いには草地や林、湿地が広がり、ヨシ原もみられます。バッタ類やキツネ、カエルなどが観察でき、住宅地の中、自然が色濃く残る大切な地域です。



キツネ (哺乳類)

北海道から九州に分布する。雑食性で、ほ乳類、鳥類、植物などを食べる。日暮れから活動を始め、餌を探す。12-2月から繁殖期となり、9月まで集団で生活する。



ハイタカ (鳥類)

北海道から四国では1年中生息する。平地から山地の樹林や河川敷に生息し、樹上で繁殖する。主にスズメやシジュウカラなどの小型の鳥類を捕食する。



オオヨシキリ (鳥類)

北海道から九州に夏のみ生息する。ヨシ原などの草地で餌を探し、昆虫やクモ、カタツムリなどを食べる。巣はヨシの茎を用いてコップ状の吊り巣をつくる。



クルマバッタ (昆虫)

本州から南西諸島に分布する。草地に生息し、主にイネ科の草を食べる。卵で冬を越し、夏から秋に成虫となる。後ろ脚と翅をこすり合わせて鳴く。



ナガエツルノゲイトウ (植物)

南米原種で、外来種として日本各地に移入している。河川や水路に生え、4-10月に花を咲かせる。観賞用に持ち込まれたものが野外へぬけ出て広がった。



アスマヒキガエル(両生類)
東海地方以北の本州に分布する。人家の庭先や森林などに生息し、昆虫などの小動物を捕食する。繁殖期には水辺に集まり、雌を奪い合う蛙合戦がみられる。



オナガ(鳥類)
東北地方から中部地方に1年中生息している。平地から山地の雑木林、市街地の公園などに生息し、昆虫類や果実などを食べる。



カブトムシ(昆虫)
本州から南西諸島に分布する。平地や低山地の雑木林に生息し、クヌギやコナラの樹液に集まる。成虫は6～8月に見られる。



カリガネソウ(植物)
北海道から九州に分布する多年草。低い山地に生え、8-9月に花を咲かせる。花には強い匂いがある。森林環境が少ない場所で見られる。



アズマモグラ(ほ乳類)
本州と四国に分布。平地から山地の畑や草地、樹林に生息する。地下でトンネルを掘り、ミミズや昆虫の幼虫、植物の種子を食べる。

板橋区の南部は、緑が多く残る丘陵地や住宅地が広がる地域で、城北中央公園や近くの緑地では、四季折々の植物やチョウなどの昆虫、モグラ(掘り返し跡)等を見ることができ、自然観察に最適です。
また、高低差のある地形による多様な生態系も魅力のひとつです。



ニホンヤモリ(は虫類)
本州から九州に分布する。民家などの人工物の隙間で生活する。夜行性で、電灯に集まる虫を待ち構えている様子がよくみられる。主に小型の昆虫を捕食する。



シジュウカラ(鳥類)
北海道から沖縄に1年中生息している。樹木の多い市街地から、山地に生息する。昆虫や植物の種を食べる。木のうろにコケなどを運び入れて巣を作り繁殖する。



アカボシゴマダラ(昆虫)
ベトナム～朝鮮半島原産で、外来種として日本各地に移入している。都市部等に生息する。幼虫はエノキ属の樹木の葉を食べ、4-10月に出現する。



カントウタンポポ(植物)
関東地方、中部地方東部に分布する。野原や道端に生え、春に花を咲かせる。セイヨウタンポポとはがくが反り返っていないことで見分けることができる。



カワセミ(鳥類)
ほぼ全国の海岸線から山地に1年中生息している。小魚や水生動物を捕食し、河川や池、湖沼の周辺で生息する。繁殖は土の崖に掘った穴で行う。



アオスジアゲハ(昆虫)
本州以南に分布する。公園や浅い山地に生息する。幼虫は街路樹に多いクスノキを食べるため、公園などに多い。年に2～3回出現する。



カワチシャ(植物)
本州～南西諸島に分布する越年草。低地の川沿いに生える。4-5月に小さい白い花を付ける。都内各地の水辺手確認されている。



タヌキ(ほ乳類)
北海道から九州に分布する。平地から高山帯まで広く分布する。人里に近い樹林に住み、水辺の近くを好む。夜行性で、果実やドングリ、昆虫などを食べる。



カナヘビ(は虫類)
北海道から九州に分布する。平地や低い山地の低い草むらを好む。主に昆虫やクモなどの小動物を捕食する。



カルガモ(鳥類)
本州以南では1年中、北海道では夏のみ生息している。日中は水辺の安全な場所で休息し、夜になると植物の種や草の芽を食べに出かける。水辺で繁殖する。



ノギリクワガタ(昆虫)
北海道から九州に分布する。低地から亜高山帯までの雑木林や河川敷のヤナギ林に生息し、成虫は6～9月まで見られる。

板橋区南東部は、商業施設や住宅が多く、交通量も多い都市的なエリアです。そんな中でも、石神井川沿いの緑道や小さな公園、街路樹などでは自然を身近に感じる事ができ、公園や樹木では、カナヘビやカルガモ、クワガタ類などの身近な生き物を観察できます。